

巻 頭 言

「突然の病気で障害者になり、失望のどん底、厳しいリハビリ、今は豊かな日々、それはラポールがあったから……」、「ラポールは、私たち障害者のオアシス」—これは、私が着任して直接聞いたラポール利用者のことばです。

18年前、横浜ラポールは、スポーツ・レクリエーション・文化活動などを通じて、障害者の社会参加及び福祉の増進、並びに障害者や介護人、その他の市民相互の交流を図るために横浜市により設置され、横浜市リハビリテーション事業団に委託されました。

開館当初の利用者は、年間約31万人（障害者・介護者は13万人で約4割）でしたが、17年目の平成21年度は、年間約42万人（障害者・介護者は29万人で約7割）になりました。ちなみに、平成23年2月頃には、累計で700万人に達する見込みです。この利用者の半数は近隣3区の居住者であるので、近隣市民のみならず市域全体へラポールで培ったノウハウを提供するため、職員が18区にある様々な施設に出張し、支援事業を展開しています。ラポールの内外で行う事業は、関係団体との連携をより一層図りつつ、さらに進化・発展させ、到達目標であるノーマライゼーション（共生社会）の実現につなげていきたいと、職員一同心底から願っております。

そのために、事業団の各施設、とりわけ横浜市総合リハビリテーションセンターとの連携を引き続き濃密にして、専門家団体として研究を重ね、利用者ニーズにきめ細かく対応できるようにしていく必要があります。

私どもの事業団は、横浜市の外郭団体として発足し23年が経過しました。今回の研究紀要は第20号の発刊となります。この間、諸先輩や在籍職員が築きあげた専門性、多くのケースの方々が希望を抱けることになった幾多の実績が、この冊子に受け継がれてきました。今後も研究・開発の成果を内外と共有することは指定管理者としての使命でもありますので、全職員が引き続き不断の努力をしまいにしたいと思います。

障害のある方々の笑顔が、いつでも、どこでも見られる社会を祈念して……。

横浜市リハビリテーション事業団

障害者スポーツ文化センター横浜ラポール 館長 井上孝夫